

## 令和5年9月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和5年9月25日（月）13時00分～14時00分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>読売新聞、山形新聞、河北新報、朝日新聞、毎日新聞、NHK、SAY、  
置賜日報

<市>市長、秘書広報課長

4 記者クラブからの質問事項

(1) 新市立病院の医師確保について

本年11月の新病院開院まで1か月となりました。市立病院における医師不足は長年の課題となっておりますが、開院時の体制はどのような見込みとなるかお知らせください。併せて、今後の医師確保に向けての方策についてお聞かせください。

(2) スポットクーラーの設置について

今月11日、山形県は熱中症対策として、県内すべての公立中学校と県立・私立高校の体育館に移動式冷風機（スポットクーラー）の設置を進めると発表しました。小学校は設置の対象外となりましたが、この方針に対する米沢市としての受け止めをお聞かせください。また、米沢市として小学校への設置を進める考えや、その他独自の対策を実施する考えはありますか、お答えください。

(3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和5年度9月の定例記者会見を開催いたします。記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

今回のご質問は2点ありました。

1点目は、「新市立病院の医師確保について。本年11月の新病院開院まで1か月となりました。市立病院における医師不足は長年の課題となっておりますが、開院時の

体制はどのような見込みとなるかお知らせください。併せて、今後の医師確保に向けての方策についてお聞かせください。」という内容です。

新病院開院時の体制はどのような見込みとなるかにつきまして、現時点では、常勤医師41名体制であります。今後は、10月に消化器内科に1名、整形外科に1名増え、2名増となる予定です。また、11月には外科に3名増える予定であり、新病院開院時の体制については、常勤医師が46名、非常勤医師等12名（初期臨床研修医を含む）の体制となる見込みです。全体では58名の体制となる予定です。

今後の医師確保に向けての方策につきまして、山大医学部の医局を訪問し陳情してまいりました。県内の医大ですので、しっかりと医師確保について要請していきたいと思えます。また、関係のある医局の確認を取りながら、これまで交流のない大学医局との交流を持つことも重要と考え、派遣元の拡大を図ってまいります。医師数自体が少なく医局からの派遣が難しい診療科については、民間医師派遣業者を利用して求人を検討していきます。

また、医学生向けの修学資金貸付制度を運用し、若手医師の獲得を図っています。市立病院と同様の修学資金貸付制度を設置している医療機関と当該貸付制度を利用している医師の融通について協議し、医師確保の機会拡大を図ります。具体的には、三友堂病院の修学資金の例として、三友堂病院で勤務することが、返還免除条件になっているが、市立病院で勤務したことも返還免除の条件とする道を三友堂病院と協議しています。また、東北医科薬科大学で運用している修学資金では、大学で指定する地域での勤務が、返還免除条件になっているものなどについて、その地域制限を越え、市立病院で勤務したことも返還免除の条件とできるように協議しています。このように、機会をとらえ、病院の情報を積極的に医学生に発信し、初期臨床研修医の獲得も行っていく考えです。

2点目は、「スポットクーラーの設置について。今月11日、山形県は熱中症対策として、県内すべての公立中学校と県立・私立高校の体育館に移動式冷風機（スポットクーラー）の設置を進めると発表しました。小学校は設置の対象外となりましたが、この方針に対する米沢市としての受け止めをお聞かせください。また、米沢市として小学校への設置を進める考えや、その他独自の対策を実施する考えはありますか、お答えください。」という内容です。

米沢市の見解としまして、県が熱中症対策として、中学校と高校の体育館にスポットクーラーの設置を進める方針を発表し、夏の厳しい暑さから子供たちの命と健康を守るという視点では対策の方向性を高く評価し、大変ありがたいと思っています。

しかし、一方で小学校は設置対象外となったことについては、県としての判断を尊重しつつも、全国では小学生の熱中症被害も発生している状況を鑑みると、やはり心配されるところです。中学校の部活動で小学校の体育館を利用されるケースもあり、その際の熱中症対策が必要となる可能性も考えられます。そういった場合にも、スポットクーラー設置が該当となるように県に対して要望していかなければなりません。

本市では、中学校だけでなく小学校の体育館への設置も県への要望を進めていくと

同時に、もし認められない場合は、本市としていろいろと検討をしながら、小学校への設置を進めていくこととなります。仮に認められた場合にも、小学校によって格差が生じないように平等性を確保しながら、小学校での活動内容を踏まえ、どのような整備が望ましいのかを現在検討しているという状況です。

○記者

1点目について伺います。市立病院の医師確保について、開院時に想定されていた人数に対して十分な人数なのかどうか、認識を教えてください。

○市長

十分であるとは言い切れないと聞いています。これまで三友堂病院と分担してきた救急患者の受け入れなどを、今後は市立病院が一手に引き受けることにもなりますので、医療分野による詳細は不明ですが、まだ満足できる状況にはないと理解しています。

○記者

現在、派遣医師という形をとっているのは山大医学部のみでしょうか。非常勤医師というのは、ここから派遣されている医師という理解でよろしいでしょうか。

○市長

現在は、山大医学部からの派遣が最も多いですが、これまで福島県立医科大学や東北大学医学部からの派遣もありました。派遣医師は常勤ではありませんので、非常勤医師ということで良いかと思えます。

○記者

地方の医師不足の大きな要因は何で、自治体からのアプローチは何ができるかと考えていますか。

○市長

いろいろな要因があるかと思えます。一つには、研修医制度において学生自身が研修分野・研修先を選択できることから、都会の病院を研修先とし、そのまま勤務するという状況があるのかなと理解しています。

自治体のアプローチとしましては、この度開院する医療連携病院は、将来的に置賜の中核病院を担うことは間違いありません。米沢市民だけでなく、置賜全体の医療を守っていくという使命を持ち、そのような思いを大学側の医局にも伝えていき、県の中核病院として、県にも医師派遣をお願いしていく必要があるかと思えます。

○記者

開院に向けて、常勤医師が5名増えるというお話でしたが、議会の中で「三友堂病院からの転籍も働きかけている」というお話もありました。そういったケースがこの5名の中に含まれていますか。

○市長

今現在は含まれていないと思えます。機能分担をしますので、これまで三友堂病院で働いていた医師の役割が変わってくるような場合には、転籍を働きかけていきます。

今後も、このことについて三友堂病院と連携・調整を図っていくことになるかと思えます。

○記者

東北医科薬科大学の修学資金制度のお話もありましたが、大学で指定する地域の範囲を広げて（米沢市も該当させる）ということでしょうか。

○市長

そういったこともしていかないと確保が難しい状況だと思います。どこの県も医師不足という現状があるようですが、もし出身地が県内や米沢だという学生がいれば、エリア拡大が医師確保につながると考えています。

○記者

医師に米沢市に来てもらう際の、アピールポイントを教えてください。

○市長

各医師にとって働く場所の要件は様々ですので、一度に解決する（アピールポイントを持つ）のはなかなか難しいと思います。そういった中で、待遇面で新たな制度を考えていくことも必要なのかなと考えています。

○記者

置賜の中核病院を担う病院として、置賜総合病院があります。今後人口が減少していく中で、置賜総合病院との連携は医師確保の面でどのように考えていますか。

○市長

医師確保については、山大医学部と県との連携が十分必要になってくると考えます。医師数においては、置賜総合病院が圧倒的に確保できていますので、救急が厳しい状況に置かれた場合は、置賜総合病院や山大医学部に搬送の可能性もあります。今後の人口減少も見据えながら、具体的には全く未定ですが、今の市立病院がなくなったスペースに新たな診療科を作るなど、置賜総合病院と連携を取りながら置賜の医療全体の充実を進めていくことが課題になっていくかと思えます。

○記者

日本で初めて、公立と民間の医療連携病院が開院するわけですが、最も大きな問題としてどのような問題があり、どのように解決してきたのか教えてください。例えば待遇面など。

○市長

おっしゃる通り、待遇の面では公立と民間では給与体系の決定方法が異なりますので、調整については現場として大変な思いをしながら進めてきたのではないのでしょうか。もう一つは、今までにない取り組みですので、医師、看護師、事務などの職員がどのように意思疎通していくかという点も大きな課題であったかと思えます。しっかりと議論を重ねて、今現在までできているのだと思えます。

しかしながら、実際に運用していく中で、新たな課題が出てくることと思えます。両病院が互いに交流できるような病院の在り方に向けて取り組んでいくことによって、住民への医療行為が充実していくものと考えます。

○記者

医療連携の委員会スタート時に、医師の派遣を念頭に置いて、山大医学部の部長が就任したかと思えます。実際に、委員長の仕事かけが功を奏しているのでしょうか。

○市長

部長ではありませんが、蔵王協議会の会長（当時）である嘉山先生に検討委員会の座長をしていただきました。山大医学部からの医師派遣につきましては、大学や蔵王協議会の理解のもとにさせていただいてきましたので、嘉山先生に取りまとめていただいたことについては、医師の確保についても新たなルートができたものと考えています。その後、嘉山先生は山大医学部からは抜けられましたので、先生の思いが今の医局にも伝わっているのかは確認が難しいです。いずれにしても、そのような思いを持って医療連携病院を作り上げてきたことはご理解をいただきながら、今後も医師確保にしっかり取り組んでいく必要があるかと思えます。

○記者

2点目について伺います。スポットクーラーについて、小学校の設置については県に引き続き要望をしていき、一方で米沢市独自で教育委員会が検討を進めていくという理解でよろしいでしょうか。

○市長

中学校の部活や社会体育といった面で、小学校の体育館を活用する場合がありますので、スポットクーラーの小学校への設置を該当させてほしいと考えています。該当となった場合でも、小学校ごとに格差が生じてしまうことはあってはなりません。県が設置するとなればありがたいことですが、そうならなかった場合には、市として対応について考えていかなければならないので、教育委員会で検討しています。

○記者

中学校の部活動で使用するからという考え方は本来どうなのかと。北海道で小学生の熱中症事案もあり、小学生が恒常的に使う施設に設置されるべきなのではと思うのですが。

○市長

その点も含めて、県がどのような方向性を出していくのかですが、市としては小学校にも設置の要望を申し入れていくということです。全ての小学校に設置されることが一番望ましいですが、可能かどうかは県の方針によりますので、その方針を待って、取り残された部分については、市で予算等を検討していくことになると考えています。

○記者

小中学校の空調設備について、この夏の事案を受けて、増設が必要だという米沢市での検討はあったのでしょうか、そして対応は進んでいるのでしょうか。

○市長

社会体育施設として利用している方々も大勢いるので、教育委員会において検討していると考えています。

○記者

市としては、来年の夏までには全小学校にスポットクーラーの設置を進めていきたいと考えているということによろしいですか。

○市長

今の段階では、進めていきたいと申し上げることはできません。あくまでも、教育委員会で検討しているということのようです。

○記者

その他について伺います。米沢市長選挙について、これまで次期市長選に出る・出ない、後継候補に関する事、誰を支援するかということは明言がなかったかと思えます。市長選の対応についていかがでしょうか。

○市長

これまで明言をしておりませんでした。時期もせまってきました。そして、3名の候補者がいる中で、(後援会事務所開きなどの)案内を受けているのは伊藤夢人さんのみです。これまでの関わりからも、私は伊藤夢人さんを支援するという事で、後援会事務所開きに出席させていただきました。

具体的には、米沢市のSDGs 参与を務めていただき市の仕事についても理解をいただいていますし、国・県との連携も考えて最適ではないかと考えています。

○記者

国・県との連携を考えた場合というのは、具体的にはどのような場合でしょうか。

○市長

市・県単独の予算だけで、米沢市の事業を行うのは厳しいため、国から制度や制度に伴う予算を確保するなど、今の自公政権との連携が重要であると考えています。

○記者

自公政権ということであると、吉村県政は逆かと思えます。

○市長

最終的な判断は、県は知事・市は市長になりますが、多くの仕事をしていく中で、予算は各部が持っています。その段階で、個人的には、各部長と県議時代の仲間として連携を取ることができたことがありがたかった。県との関わりにおいては、県議との連携を取るということも重要になってくるのかなと考えています。

○記者

その他について伺います。「くても」について、実際に内覧されて、公約の達成度としてはどのような施設だと評価していますか。

○市長

すこやかセンター内の「もくいくひろば」・アクティー米沢を活用した「くても」と、年代に応じて利用できる屋内遊戯施設です。その成果としては嬉しく思っていますが、これで良いとは考えていません。今後、気候の良い時には屋外でも遊べるような一体型施設を作っていく必要があるのかなと考えています。また、すこやかセンタ

一・アクティー米沢の外は、冬は雪置き場として利用されていますが、雪とも遊べるような除排雪の在り方を考えてみてはどうかと思います。雪国米沢としては、施設をもっと活かして、冬場でも楽しめる施設になれば良いと考えています。

○記者

市長にとって、あの場所で雪遊びをするというのは、どのようなイメージですか。

○市長

そり遊びができるよう、危険性のないスロープを作ったりなど少し工夫することを考えています。

○記者

市長選について伺います。伊藤夢人さんの政策集で気になる主張などはありますか。

○市長

私が政策について言及することはございません。ただ、政策を実現していく上で財源の確保や民間活力の活用についてしっかりと対応していただければと考えています。

○記者

米坂線についてお伺いします。先日小国町で、JRと関係自治体との初めての会合がありました。JR側は鉄道の維持を前提に今後検討していくという話がありましたが、市長としてはどのようにご覧になりましたか。

○市長

第一義には災害の復旧だということを前提にして、現実的に、沿線自治体としてどのように関わっていくかという問題は、これから出てくるものだと考えています。

通勤・通学を始め、観光としても重要な路線です。米沢市としても災害の復旧に連携して取り組んでいく必要があると思います。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和5年度9月の定例記者会見を終了いたします。